

かんじやと医療

第84号

(毎月1回)
1日発行

発行所

全国患者団体連絡協議会

東京都新宿区下落合3-15-29
〒161 田沼ビル 全腎協内
電話 03(952)5340

郵便振替東京7-36736

購読料 1部110円 6カ月分660円



厚生省大臣官房政策課課長補佐④に要請する全患連代表④

全患連が
統一行動

医療費抑制やめよ 厚生省推進本部に要請

五十八年度予算編成作業がす
すむ中で医療費の抑制が最重要
課題として浮上してきています

ました。

しました。

が、全患連では第八回大会での
討議と特別決議にもとづいて十
一月十二日、厚生省交渉を行い

が、全患連では第八回大会での
討議と特別決議にもとづいて十
一月十二日、厚生省交渉を行い

が、全患連では第八回大会での
討議と特別決議にもとづいて十
一月十二日、厚生省交渉を行い

が、全患連では第八回大会での
討議と特別決議にもとづいて十
一月十二日、厚生省交渉を行い

おもな記事

- 患者の生活と処遇の実態③..... 2
- 全患連第八回大会ひらく..... 3
- 運動の交流広場..... 6
- はり、きゆう、マッサージを守る連絡会
患者・家族集会実行委 推進協..... 7
- 今の焦点と役立つもの
障害年金改正をすすめる会代表者会議..... 7
- 読者のたより
労災補償問題を闘って..... 8

公費医療制度

国、都道府県、市町村などが医療費の全額あるいは一部を負担する制度で、生活保護法にもとづく医療扶助、児童福祉法、身体障害者福祉法、母子保健法、学校保健法、結核予防法、らい予防法、性病予防法、伝染病予防法、精神衛生法、麻薬取締法、優生保護法、戦傷病等特別援護法、原爆医療法など各法にもとづくものと、特定疾患治療研究事業(難病)のように予算措置によるものがある。また、難病、身障に、地方自治体独自の公費制度もある。政府は医療費抑制の一環として、結核、精神への公費医療を手はじめとして制度の改善を図ろうとしている。

ひとくち辞典

患者の生活と 処遇の実態 ③

七・七人に一人が病人
といわれる中で

連載第一回目でお知らせしているように、①入院中の病院の種類(民間か国立かなど)からの薬による副作用の有無までは、「入院中の患者のみ対象」となっています。

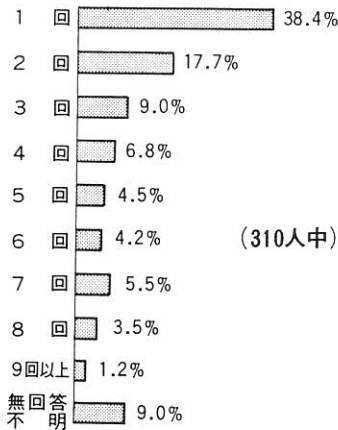
そこで今回は、①入院して廃合、医療従事者の合理化を
いる病院、②入院時の回診、 勧告し、厚生省がそれに応じ
③回診の回数、④回診の平均 ようとしていますが、この調
時間の四項目について掲載し 査をみただけでもその無謀さ
ます。 が指摘できます。

「入院中の病院」では、日 本は諸外国に比べて民間の医
療機関より国立の医療機関 のほうが少ないですが、し
かし調査では五二名の人が国 側面から少しくなる
公立に入院しています。 と退院し、また悪化して入院

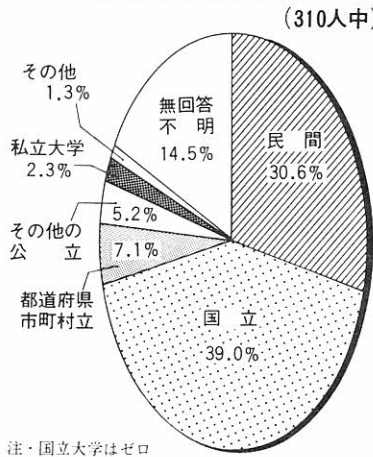
これは技術、経費の面で長 期慢性疾患の信頼が相対的に
国公立に向けられているから 障の充実は切実です。つまり
といえましょう。「臨時行政 安心して入院できる医療保障
調査会」が国立医療機関の統 こそが望まれます。

「回診の回数」は古くて新 一つの問題です。
しい問題です。昔聞いわれて 「診療時間」も五分以内が
いるように、「待ち時間三時 四六・一%です。
間診療三分」は入院中といえ 医師過剰時代来る、といっ
ども例外ではありません。表 てもまだまだ相対的には医師
のように毎日の回診はわずか 不足の現われといえましょ
に二六・八%、月に一、二回 う。(文責・おさひろし、小
というのは六・五人に一人も 林孟史)

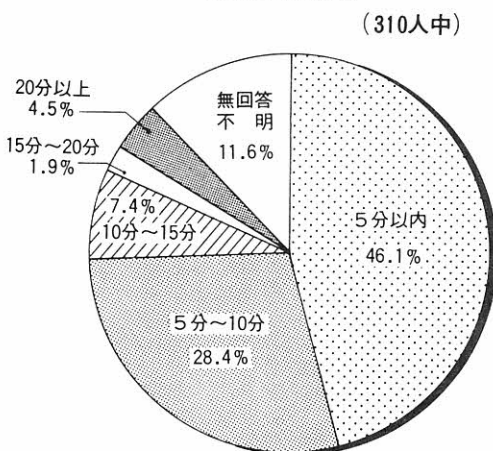
入院回数



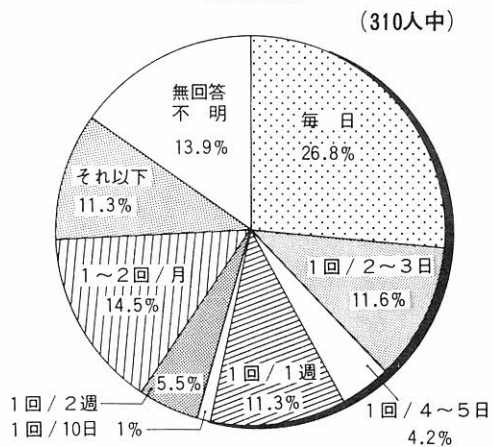
入院中の病院の種類



平均回診時間



回診回数



注・国立大学はゼロ

全患連第8回定期大会ひらく

「行革」反対、医療拡充へ



大会は医療制度大改悪の動きに反対する決議も採択

全患者のパワーを結集

'83年度運動方針決める

十一月三日、全患連(加盟八団体・会員数五万七千人)は、第八回定期大会を東京・新宿農協会館でひらきました。患者・障害者いじめの「行革」に反対し、医療・福祉の充実をめざすとともに、平和と民主主義を守ろうなど四つのスローガンのもとに、大会に

大会は、医療団体連絡会議の事務局長と日本共産党中央委員 代表として日本医労協の仲恭男 会の豊田さやか高齢者・障害者

は加盟団体の代表六十四人が参加しました。臨調基本答申にそって政府は、福祉切捨て・医療費抑制の方針をいっそう強めつつあります。憲法で保障された権利としての医療確立をめざし、大会は八三年度の運動方針など全議案を満場一致で決定しました。

対策委員長を来賓に迎えて、議事をすすめました。また、多数の祝電・メッセージ(別項)が寄せられました。

上田代表幹事(全腎協会長)はあいさつのなかで「全患連は昭和五十年代の幕明けに発足、医療や社会保障の拡充へ向けて加盟各団体が力を合わせ、運動をつみ重ね、いくつかの成果をあげてきた」と述べました。

さらに「ところが今、臨調答申の名のもとに政府が進めつつある『行政改革』は、戦後きずいてきた医療・福祉の考え方を踏みにじるものであり、憲法違反とさえ言えると思う。歴史の逆流を阻止するため、患者・障害者のパワーを結集しよう。ひとつの患者団体の力では越えら

れない障壁を、みんなで打ち破ろう」と強く訴えました。

このあと議事に入りました。一九八二年度活動報告を小林事務局長が、同会計報告を落合財政部長が報告。会計監査結果を山田監査委員がそれぞれ報告し、質疑応答のあと、これらの諸報告を満場一致で承認しました。

午後には、一九八三年度運動方針について、古川事務局長の提案説明をうけたあと、質疑・討論をおこないました。古川事務局長は、運動方針案作成後の政治局勢などを追加報告。そのなかで、患者や障害者、国民生活に「痛み」を押しつけ、軍事費などを優先する臨調路線の不当性、反国民性を情勢にもとづいて厳しく指摘しました。

厚生省が十月一日に設置した「国民医療費適正化総合対策推進本部」が、医療費を抑制する

ため、一切の無駄を排除することをめざし①医療従事者の配置基準を見直す②施設の統廃合・一部業務の民間委託③食事代の患者負担などを検討課題にしていることも報告されました。運動方針案討議では活発な意見があいつぎました。

【祝電】

公明党国民運動本部、民社党委員長佐々木良作、全国難病団体連絡協議会、障害者の生活と権利を守る全国連絡

【来賓】

豊田さやか(日協議会、福島県難病連、全国保険医団体連合会、全日本民主医療機関連合会、生協医療部会、新日本医師協会、衆議院議員・岩佐恵美)

【メッセージ】

北海道難病連、京都難病連

【寄付】

保団連 一百万

一九八三年度 スローガン

- 一、患者・障害者いじめの「行革」に反対し、医療・福祉の拡充をめざすとともに、平和と民主主義を守ろう
- 二、障害者の「全面参加と平等」を保障する身体障害者福祉法の改正を実現させよう
- 三、年金、生活保護の引き締めを反対し、患者・障害者の生活を改善させよう
- 四、患者運動の全国的な結集をめざそう

わたしたち全患連は、創立以来、もっとも厳しい状況の中で第八回定期大会を開きました。この大会に参加した代表は、過去一年間の貴重な運動の成果に確信をもって、患者と家族をめぐる情勢とその背景、そして今後の課題について熱心に話し合いました。わたしたちは、昨年の大会で、臨調答申が指摘する方向は、患者と家族の切望するゆたかな医療と福祉を保障するものではないことを明らかにしました。このわたしたちの指摘は、七月に行われた臨調の基本答申や老人医療費の有料化をめざす老人保健法の成立、医療費の抑制策にもとづく受診抑制、患者負担の増大、年金、生活保護、労働補償受給への締めつけなどの動きによって実証されています。政府は、昭和五十八年度予算編成にあたって、社会保険に国民が支持されるものではなく、それは財政政策などの

イナス・シーリングをおしつけながら、防衛予算については別枠として増額を認めています。さらに、公務員労働者の基本的な権にかかわる人事院勧告は、凍結するという不合法なことを強行しようとしています。人事院勧告の凍結を認めるならば、年金、生活保護基準、各種手当の引き上げにも重大な影響を及ぼすこと

大会宣言

破たんによって首相、内閣が交替せざるを得なくなったことに雄弁に示されています。わたしたちは、この新たな局面を重視し、当面、とくに五十八年度予算編成と臨時国会対策に力を入れるとともに、医療費抑制策にもとづく受診抑制、患者負担の強化、年金、生活保護、労働補償受給に対する締めつけに反対し、全力

をあげて運動にとり組むことも確認しました。わたしたちはまた、医療、福祉が切り捨てられようとする一方で、軍事費を突出させようとする政治に強く反対し、平和で、安心して医療を受け、生活していくことのできる社会を強く望んでいることを一致して確認しました。一九八二年十一月三日、全国患者団体連絡協議会第八回定期大会

政府はいま、第二臨調の答申を受けて、医療、福祉、教育など国民の生活を犠牲とする「行革」なるものをすすめるようしている。この一連の動きの中で、とりわけ私たちが黙視できないのは、「医療費抑制」の名のもとに患者の受診の機会を奪い、患者負担を強化しようとする制度の大改悪がすすめられようとしていることである。

医療制度大改悪の動きに反対する特別決議

厚生省はすでに十月一日から医療費抑制のための「推進本部」を発足させたが、報道によれば、大蔵省は現在の医療費支払い方式である現物給付を現金償還制にすることを検討しているといわれ、また、入院時の食事代を保険給付の対象からはずし、患者負担とすることも検討中と伝えられている。以上、決議する。一九八二年十一月三日、全国患者団体連絡協議会第八回定期大会

一部業務の民間委託など医療の質を低下させる改悪もすすめる。また、老人保健法の成立をテコとして、地方自治体の単独事業をも抑制し、公費医療制度の改悪もすすめるようとしている。このような医療保険制度、医療制度の改悪は、患者から医療を受ける機会を奪い、医療の質を低下させるものであり、私たちは、断固として反対するものである。私たちは、政府に対し、医療費現金償還払いの導入、患者負担の強化、医療従事者の削減、公費医療制度の改悪、国立医療機関の統廃合など、医療制度の改悪計画を直ちにやめるとともに、患者が安心して治療を続けたいくことができるよう医療体制を一層拡充することを強く要求するものである。

1982年度会計 収支報告書

自 1981年10月1日
至 1982年9月30日

一九八二年十月一日から一九八二年九月三十日までの一九八二年度全患連会計について、関係諸帳簿、伝票、証ひょう類に係る係諸帳簿、伝票、証ひょう類に
二年度全患連会計について、関係諸帳簿、伝票、証ひょう類に係る係諸帳簿、伝票、証ひょう類に
二年度全患連会計について、関係諸帳簿、伝票、証ひょう類に係る係諸帳簿、伝票、証ひょう類に

会計監査報告書

一九八二年十月二十六日
会計監査委員
全国腎臓病患者連絡協議会
山田 誠
新設代行 堀崎 一雄

部	科目	1982年度		比	備 考
		予算	実績		
収入の部	分担金	1,129,830	1,122,000	99.3	内訳別項
	機関誌購読料	1,370,000	1,180,970	86.2	内訳別項
	募集寄付金	100,000	50,760	50.8	7件
	雑収入	10,000	6,443	64.4	受取利息ほか
	計	2,609,830	2,360,173	90.4	
支出の部	大会諸会議費	100,000	59,176	59.2	第7回大会、第10回学習交流会、幹事会、事務局会議ほか
	機関誌発行費	1,800,000	1,693,485	94.1	68号～81号、印刷、送料、原稿料、写真代
	印刷費	100,000	37,115	37.1	コピー、ファックス、年賀状
支出の部	通信送費	60,000	82,710	137.9	電話代(全腎協=2,500×12)、切手代、電報代
	事務局諸費	56,000	44,685	79.8	事務所費(全腎協=3,000×12)、事務用品
	役員行動費	250,000	99,540	39.8	幹事会、事務局会議、各種行動
	人件費	120,000	120,000	100.0	アルバイト代(10,000×12)
	諸会費	20,000	53,600	268.0	国際障害者年日本推進協議会、障害年金改正をすすめる会
	雑費	35,458	0	0.0	
	計	2,541,458	2,190,311	86.2	
	予備費	200,000	0		
	下期繰越金	-	301,490		
	計	2,741,458	2,491,801	90.9	

1983年度予算 (自'82.10.1~至'83.9.30)

部	科目	予算額	備 考
収入の部	分担金	1,172,000	内訳別項
	機関誌購読料	1,320,000	1,000部×1,320円
	募金寄付金	50,000	
	雑収入	20,000	受取利息、広告料
	計	2,562,000	
支出の部	前期繰越金	301,490	
	計	2,863,490	
支出の部	大会諸会議費	100,000	大会、学習交流会等の会場費、その他
	機関誌発行費	1,574,000	82～93号印刷費、送料、原稿料等
	印刷費	100,000	コピー、ファックス、その他
	通信送費	150,000	電話(全腎協、@3,000)、切手、機関誌送料
	事務局諸費	140,000	事務所費(全腎協・@10,000)、事務用品
	役員行動費	250,000	幹事会、事務局会議、その他
	人件費	180,000	アルバイト代(全腎協・月額15,000円)
	諸会費	63,600	国際年日本推進協、障害年金改正をすすめる会
	雑費	15,890	
	計	2,573,490	
支出の部	予備費	290,000	
	下期繰越金	-	
計	2,863,490		

一九八三年度役員

- | | | | | |
|-------|-------|------|-------|-------|
| 代表幹事 | 長 宏 | 財政部長 | 落合 希子 | 堀内富士雄 |
| 事務局次長 | 小林 孟史 | 幹事 | 上田 昭 | 山田 義信 |
| 事務局次長 | 梅崎 圓子 | | 岡本 洋 | 米村 正国 |
| 事務局次長 | 中野 佳子 | | 末永 楡雄 | 前田 幸男 |
| 事務局次長 | 古川 圭助 | | 辻川 寿之 | 石川 勇吉 |
| 事務局次長 | 同 | | 同 | 根来 四郎 |
| 事務局次長 | 同 | | 同 | 同 |

運動の 交流広場



はり・きゅう・マッサージを守る連絡会の厚生省交渉、11月19日

サヨナラ・サービスを追及

中央大行動に51団体

はり・きゅう・
守る連絡会

全患連も加盟している「はり、きゅう、マッサージを守る連絡会」の11・19中央大行動は全国労災職業病対策実行委員会を責任団体に各県代表団約五十人が参加。労働省四〇一A会議室で、労働省と交渉しました。

臨調・行革路線の先取りで労災のはり、きゅう、マッサージを9ヵ月から12ヵ月に給付制限して、労災被災者の給付そのものまで打ち切ろうとする労働省のいわゆる「サヨナラ、サービス」をするべく追及しました。はり、きゅうの治療効果については、被災者から話を聞くことで、職場(会社)復帰訓練問題

と併せて、次回に継続交渉となりました。厚生省交渉は、全国は五十二団体、百三十人が参加して、青山学院大学青学会館で総括集会をひらきました。午前約三十人の代表団が、二時間に

視力障害者協議会が中心になり、二時間中、厚生省交渉は、全国は五十二団体、百三十人が参加して、青山学院大学青学会館で総括集会をひらきました。午前約三十人の代表団が、二時間に

この交渉には、全患連から小林事務局長が参加しました。午前中の交渉に参加できず、待機しながら交渉団を激励して成功裡に終了しました。

患者集会実行委 組織を再編し行動へ 年内発足をめざす

二年半近くも活動を休止していた「全国患者家族集会実行委」が、十一月二十三日、東京・品川区の「全社連会館」で第九回実行委員会を開きました。この実行委員会は、昭和五十三年四月に全国の患者・家族団体が結集して「ゆたかな医療と福祉をめざそう」と八百人近い参加者のもとで、患者運動史上画期的といわれた全国集会を成功させましたが、集会后は国会請願、厚生省要請などの活動を行なったほかは、事実上その活動を休止していました。

生活と権利守ろう 推進協が国民会議'82

「草の根運動をつよめ、障害者の生活、権利を守りぬきましよう」と、国際障害者年日本推進協議会主催の「国民会議'82」が十一月二十七日から二日間、東京・文京区の後楽園会館でひらかれました。この会議は、推進協が昨年策定した「障害者の完全参加と平等」実現のための長期行動計画をもとに、中曽根内閣が発足し、臨調「行革」の名のもとに福祉切り捨てがはたかかっていくとみられるだけに、障害者や関係者の危機感がよく訴えられる会議となりました。

「ハンセン氏病への偏見は国の責任」「透析治療が抑制される」「予算要求貫徹の体制をとるべき」など、実態の報告と提言などをおこないました。会議は、さいごに「討論のまとめ」を確認し、国民への訴えもこめた「アピール」を採択。中央、地方でねばりつよく運動をつよめることを誓いあい、閉会しました。(日患同盟・小林)

員会が、十一月二十三日、東京・品川区の「全社連会館」で第九回実行委員会を開きました。この実行委員会は、昭和五十三年四月に全国の患者・家族団体が結集して「ゆたかな医療と福祉をめざそう」と八百人近い参加者のもとで、患者運動史上画期的といわれた全国集会を成功させましたが、集会后は国会請願、厚生省要請などの活動を行なったほかは、事実上その活動を休止していました。

しかし、第二臨調答申にもとづく社会保障への抑制方針が強まる状況のもとで、実行委員会を再編し、早急に何らかの全国的な行動を提起すべきであるとの声が強まり、急遽開かれたものです。会議には十四団体十八人の代表が参加し、中央、各地域の医療、福祉の状況を交流した後、今後の行動などについて協議しました。その結果、①厳しい状況のもとで何らかの行動を起すこと②実行委員会はその行動の基礎になる機能を失っているので新組織により準備をすすめること③新組織は年内に発足させること④具体的な行動を準備することなどを確認しました。

医療の地域格差さらに拡大

経企庁が「国民生活白書」を発表

経済企画庁は十一月九日、五十七年度の国民生活白書を発表しました。この中で医療問題についてふれた「健康水準の向上と医療サービス」をみると、平均寿命、乳児死亡率、訂正死亡率などみる国民の「健康状態は世界一」としています。

しかし、病院・病床の地域格差は縮小しているものの、一般診療所・歯科診療所は大都市に集中し、医師の数も大都市に集中して地域格差は大きくなっているとしています。このため、国民の医療施設、大都市が二八・一多に對し、町村では六・四多と大きな差がでています。

今の焦点は「役立ちの」

大蔵大臣の諮問機関である財政制度審議会

の第一特別部会は十一月二日、臨調答申を受けて五十八年度予算に向けての三十二項目におよぶ歳出削減・抑制の検討項目リストを発表しました。このリストのうち社会保障関係費では、生活保護の適正化、児童扶養手当、特別児童扶養手当制度の見直し、保育所、幼稚園の助成のあり方の検討、医療費適正化の推進、医療保険制度の見直し、社会保険事務費の保険料負担など九項目をあげています。

結核「公費」を保険優先へ

財政制度審・32項目の歳出削減検討

指導・監査の強化、老人病院等施設の合理化、体系化、医療費支払方式の見直しなどをあげ、医療保険制度の見直しでは、入院食費自己負担、結核、精神等公費負担医療の保険優先などをあげています。

これらのうち医療費適正化の項では、医療機関への

障害年金改正をすすめる会（吉本哲夫会長）は十一月十四日午後、東京・豊島区民センターで各団体代表者会議をひらきました。

会議には、全腎協、全患協、全有協、全交災、障全協、全視協、全国脊髄損傷者連合会、障害者の生活と権利を守る千葉県連絡協議会、日患同盟の九団体十五名の代表が参加しました。

会議は、堀崎一雄氏（全患協）を議長にすすめられ、活動報告、会計報告、監査報告を承認後、運動方針について活発な討論をおこない①運動の基本②二十七項目の要求③運動のすすめかたを確認しました。

また、会議は障害者生活保障問題専門家会議への障害年金改正をすすめる会の提言、予算についても確認し、さいごに役員選出をおこない、会長に吉本哲夫（障全協）副会長に前田幸男（互療会）古川圭助（日患）事務局長に佐々木長（日患）幹事三名、会計監査一名を選出しました。

障害年金改正をすすめる会
年金受ける権利明確に
統一要求で運動強化へ

このあと、社会保険労務士の渡辺清氏を講師に迎え学習会をひらき、年金の申請に当り留意すべき点を中心に、診断書をよく点検するなど強調されました。

た。また会議では、全患協代表より「ハンセン氏病による知覚マヒが障害年金の認定基準に具体的に入っていないため、ぜひ入れてほしいと運動している。すすめる会の統一要求にも含めてほしい」との要望があり、会と

確保することが、自分自身では完全に又は部分的にできない人のことであるとの国連決議に基づくすべての障害者が障害年金を受ける権利のあることを明確にして運動をすすめる。④障害者は経済的社会保障を受け、相当の生活水準を保つ権利を有することを明確にして運動をすすめる。⑤普遍的で次代にひきつぎができる運動をすすめる。

して検討していくことを確認しました。代表者会議が確認した運動の基本はつぎのとおりです。

①障害者とは先天的か否にかかわらず、身体的又は精神的能力の不全のために、通常の個人又は社会生活に必要なことを

また、統一要求は①障害年金の年金額は、生活できる額に引き上げて下さい②国民年金障害福祉年金は、拠出年金と同額として下さい③国民年金に三級をつくって下さい④二十歳前または制度発足前の障害者に対し、国民年金に加入し拠出要件を満たしたときには、障害年金を支給して下さい⑤人口肛門、ベースメーカー使用等は、国民年金の二級該当にして下さい⑥サラリーマンの妻などカラ期間中の障害者には、障害福祉年金を支給して下さいの障害手当金を受けたものが、その後障害等級に該当するようになった場合は、障害年金を請求できるようにして下さい⑦など二十七項目で、診断書料金は各種年金で、老齢年金に対する課税の廃止などもふくまれています。



労災補償問題を闘って

全有協 岩橋 利美

今年2月のある日、以前私が有機溶剤中毒症補償問題で大変お世話になった武三地区労から電話があった。

その電話の内容は、「君の会社(三鷹市にある帝国インキ製造(株)三鷹工場)で、同期に入社した川島正弘氏が昭和55年10月に印刷インキを練るロールを掃除中に足場がくずれて、ロールからインキをかき取る歯で右肢内側を裂傷する労災事故に被災し、治療を続けてきたが今年に

なつて症状固定に近いと医師から言われたので職場復帰を申し出たが、会社に受け入れを拒否されて、地区労に相談にきてい

る」というものでした。さつそく私も武三地区労事務所に出向いて事情を詳細に聞く

以後、武三地区労の役員の方々の指導の下で、川島氏と私で出来ることをやろうと確認して、団体交渉、事務接渉をやるなかで、一方では従業員に対する門前ビラ、地域ビラ等の宣伝活動をしてみました。

私は、この事件を通して、安全対策の強化はもちろん、就業規則や企業内労災補償規定なども労働災害・職業病の発生を多少なりとも防止できる側面をも

らには安全対策等に関する要求書準備し、2月10日提出しました。

そして、10月28日によつて話し合いがまとまり、川島労災

話し合いがまとまり、川島労災

話し合いがまとまり、川島労災

全患連加盟組織

<互療会>

〒105 港区新橋5-14-12 大幸ビル2階
☎03(432)3514

<全国交通労働災害対策協議会>

〒171 豊島区西池袋1-4-5
☎03(982)7361

<全国腎臓病患者連絡協議会>

〒161 新宿区下落合3-15-29 田沼ビル
☎03(952)5340

<全国心臓病の子供を守る会>

〒101 千代田区神田北乗物町17 北乗ビル
☎03(256)8424

<全国ハンセン氏病患者協議会>

〒189 東村山市青葉町4-1-10
☎0423(94)1571

<全国職業性有害物障害患者協議会>

〒105 港区西新橋2-21-5
☎03-(433)2082

<日本患者同盟>

〒204 清瀬市松山2-13-12
☎0424(91)0058

<慢性一酸化炭素中毒患者会>

〒151 渋谷区千駄ヶ谷1-31-5 代々木病院内

事務局から

▼わたしたち患者に寒さが肌身にしみる冬を迎えました▼改憲、「行革」推進の中曾根「角営」内閣が発足しました▼医療制度改悪の動きが「医療費適正化」の名をかりて強められています▼日本ケミファの悪徳・反社会的犯罪も、徹底的に糾明されねばなりません▼患者・障害者・国民の生きる権利をふみつぎそうとする、すべての企

らみを許さない怒りの炎を!

石ころを蹴って

— 手のない子らとともに —

図書館協会指定

山崎寿美子著

上製B6 240頁

定価 1,400円

送料 300円

0095-998108-7427

●すいせんのことば

日本では人間の奇形は不幸の目じるして、子どもの人権問題は不毛でした。今年には国際障害者年です。是非社会から偏見をとり除きたいと思います。山崎夫妻は、私の尊敬する知人です。偶々出逢った手のない守ちゃんという赤ちゃんを養子にして、惜しめない愛情

で育てたのがこの記録です。子育ての中の悩みや苦しみを追及して、薬害の恐ろしさに対する怒りに昇華させ、障害児者運動へと結合させたすばらしいこの本は、きっと子どもの人権とは何かを、私たちに教えてくれるでしょう。

障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会 会長 矢島せい子

発行・ひまわり出版株式会社

〒104 東京都中央区銀座7 12 9日耐ビル2F
☎03 545 2750